

▶ 日 時：令和元年7月30日(火) 13時30分～15時30分

▶ 場 所：湖西市民活動センター 2F 大会議室

▶ 出席者：名和聖高、豊田吉博、田代瑠璃、ホセ カルロス、林スワナンナ、  
末吉由佳、此本真久、中村哲也、柴田和利、猪井英典、宮崎幸治、辻村文美子

事務局：市民安全部長、市民課（課長、課長代理兼係長、主任）

▶ 資料：次第、平成30年度第2次湖西市多文化共生推進プラン進捗状況調査まとめ  
（資料1）、多文化共生社会の実現に関する一考察、新聞記事コピー（名和会長  
提供）

しだい  
▶次第

1. 開会

2. 市民安全部長あいさつ

3. 委嘱状交付

4. 委員・事務局自己紹介

5. 会長及び副会長の選任

6. 議題

(1) 平成30年度第2次湖西市多文化共生推進プラン進捗状況報告(資料1)

(2) 意見交換

5. 閉会

1. 開会

2. 市民安全部長あいさつ

3. 委嘱状交付

4. 委員・事務局自己紹介

5. 会長及び副会長の選任

会長：湖西市多文化共生社会推進協議会設置要綱第4条第2項の規定により学識経験者  
である名和聖高委員を選任

副会長：要綱第4条第3項の規定により会長が猪井英典委員を指名

## 6. 議題

### (1) 平成30年度第2次湖西市多文化共生推進プラン進捗状況報告

#### 【各課の報告内容は資料1参照】

#### ◆ 協議会委員の意見・質問

委員：「No.2 多言語ウェブサイトの充実」で30年6月にポルトガル語のFacebookを開設とあるが、ポルトガル語のみで掲載するのか、他の言語でも掲示するのか。

事務局：今はポルトガル語のみです。Facebook自体初めての取り組みのため、まずはポルトガル語から始めました。

委員：昨年、このFacebookを紹介したが、「私はポルトガル語が分からない。」と言われ言語の問題が発生した。今後、どの様になっていくか知りたかったので質問をした。

会長：今まではブラジルの方が多かったが、昨今は多様化している。ペルーから来る方もいるので、スペイン語も配慮が必要だと考える。ぜひ、前向きに検討をお願いする。

委員：「No.7 外国語通訳者派遣事業」ですが、通訳者が6名追加され21名になったということだが、対応言語と人数を確認したい。

事務局：ポルトガル語8名、スペイン語3名、ベトナム語4名、タガログ語1名、中国語2名、タイ語1名、英語2名です。

委員：足りない言語や充実したい言語はあるか。

事務局：インドネシア語の通訳者がいないので対応したい。また、通訳者が1名しかいない言語はその方の都合が悪い場合通訳できないので、複数人体制にしたいと考えている。

会長：インドネシアからの技能実習生は多いが、言語的な部分で不都合はないか。

委員：商工会の場合名古屋に支社があるため、そこから来てもらい対応している。市内の通訳者がいればありがたい。

委員：商工会に研修に行ってもらい日本語を勉強している。日本語が堪能な人を正社員として雇い、その者に指導役として活躍してもらおうと考えている。言葉の問題は、いろんな国の方がいるので、対策を統一的に行うのではなく、それぞれの住んでいた地域に分けて行っていったほうが良いと考える。

委員：「No.9 日本語の学習機会」について、湖西国際交流協会へ委託して日本語教室を開催しているとのことだが、どのくらいの頻度、人数で開催しているのか。また、学習について行けない子はいないのか。

委員：湖西国際交流協会事務局の私から答えます。子供向けに行っている日本語講座は通年を通してやっているものと、就学前に行う春のスクール、夏休みに行う夏のスクールの3種類ある。通年でやっている講座は毎週水曜日（15：30～17：30）と金曜日（18：00～19：30）に実施している。登録者数としては60人を超えており、常に小学生、中学生合わせて30名くらいは出席している。学内で友達とふれあう中で短い期間で日常会話は身につけるが、教育言語を身につけるには時間がかかる。成績については優秀な子もいるがそうでない子もいる。どちらかという二極化してきていると感じている。この3講座以外に、日本に来たばかりの子供に対して学校へ入る前に少しでも日本語に慣れてもらい、安全に登校できるように信号の見方や横断歩道の渡り方等を数日間かけて教える初期支援を自主的に行っている。しかしながら、すべての子供を受け入れられる状況ではなく、学校の意向や本人の状況に応じてまちまちのため、このシステムを確立しなければと考えている。

委員：始めできない子供でも、どのくらいの期間で日本語ができるようになるのか。

委員：本人の資質やモチベーション、家庭環境によるため一概に言えない。

委員：学習についていけない子供は何パーセント位いたのか。いかに0に近づけるかがこの会議のテーマでもないと考えている。

委員：平成30年度を例にあげると、中学三年生で高校に進学を希望していた子供が何名か来ていたが、この子供達に関しては希望の高校に入学できた。湖西市に住んでいる子供たちが全員ここへ通えるわけではないので、どう救い上げるかがテーマかと考える。

会長：学校の現場ではどうか。

委員：鷺津小学校は常駐で通訳員が学校の中にいるので環境が整っている。また、国際交流協会で勉強する機会があるので、鷺津小・中に通っている児童は比較的言語が身に付きやすい環境にいると考える。家庭環境も大きい要因だと考える。せっかく学校で少し日本語を覚えたかなと思っても、帰宅したら家庭内

では母国語で会話しているので、習得に時間はかかるし、子どもの中でも差はある。

委員：鷺津から遠い地区では初期支援を受けるために、親の送迎が必要となる。このことが初期支援を受けられない一つの原因になっていると考える。

委員：「No.20 火災・救急通報への多言語での対応」があるが、これの周知方法についてどの様になっているのか。とても良い取り組みであるが、私の知っている限りこのことを知っている人がほぼいない。

事務局：インフォマチャーボ7月1日号に掲載をした。また、市のWEBサイトでの案内とポルトガル語版Facebookへの掲載を準備中です。

会長：「No.22 防災に関する周知」において防災講座を実施したとあるが、その内容はどのようなものか。

事務局：危機管理課が実施した出前講座であるため、詳細については事務局で把握しておりません。

委員：実習生制度は3年が一つの区切りとなるが、日本に入国して一か月集中的に学校形式で日本の習慣等の勉強している。その中で、例えば廃棄物対策課であればごみの分別、危機管理課であれば防災といったことを市の各課から教えてもらっている。

会長：企業内ではどうしているか。

委員：年1回程度、国別の母国語のマニュアルを基に防災訓練を実施している。

会長：自治会としては何か行っているのか。

委員：市の防災訓練（9月、12月）に合わせて、ポルトガル語、スペイン語のチラシを配布して行っている。

委員：「No.31 多文化共生の視点での活動推進」ですが、実施したセミナーの内容は。

事務局：昨年度は市民活動支援事業と共同で実施しました。アメリカのジョージア大学の学生が来日し、日本の大学との交流の一環として、日本人がフラメンコダンサーとしてスペインに行った体験を講演してもらい、受け入れられる立場で考

えるセミナー<sup>おこな</sup>を行いました。

(2) 意見交換 <sup>いけんこうかん</sup> 「<sup>ちいきしゃかい</sup>地域社会への<sup>きたい</sup>期待、<sup>ちいきしゃかい</sup>地域社会からの<sup>きたい</sup>期待」

名和会<sup>な わ かいちよう</sup>長からの<sup>わ だいていきよう</sup>話題提<sup>もと</sup>供に基づき「<sup>しゆつにゆうこくかん り およ</sup>出入国管理及び<sup>なんみんにんていほう</sup>難民認定法の<sup>かいせい</sup>改正に伴<sup>ともな</sup>う<sup>がいこく</sup>外国  
<sup>じんろうどうしや ぞうか</sup>人労働者の<sup>いけんかん</sup>増加」を<sup>いけんこうかん</sup>テーマに<sup>おこな</sup>委員間の<sup>いけん</sup>意見交換を<sup>かだい</sup>行<sup>いちばん</sup>った。一番の<sup>にほんごきょういく</sup>課題として<sup>にほんごきょういく</sup>日本語教育  
<sup>こんご</sup>が<sup>にほんごきょういく</sup>あげられた。今後の<sup>あ</sup>日本語教育の<sup>あ</sup>在り方や<sup>かた</sup>実施方法などについて<sup>いけん</sup>意見や<sup>かんが</sup>考<sup>はな</sup>えを<sup>あ</sup>話し合  
った。

5. <sup>へいかい</sup>閉会